



ドクター・銅って？

◆景気の先行き、銅が診断／価格下がれば減速

Q - 「ドクター・銅」ってなあに。

A - 「銅 (copper)」は英語で銅のことです。銅の価格が世界経済の動きに敏感に反応することから、景気を「診断する」指標として「ドクター」の異名で呼ばれることがあるのです。

Q - 景気の動きが早く分かるってことなのね。

A - 世界中から注目を集めるような株価指数の動きと比べても、銅価格の国際指標となるロンドン金属取引所 (LME) の3ヵ月先物価格は、世界経済の変調にいち早く反応しています。その例として挙げられるのが、コロナショックやリーマンショックの際の銅価格の動きです。



新型コロナウイルスが世界的に流行し始めた2020年2月末から3月にかけて株価は大暴落していますが、銅価格の推移を見てみると、20年1月後半から2月上旬にかけて急落しています。またリーマンショックでは、米投資銀行リーマンブラザーズが08年9月15日に破綻してから世界的に株価が急落していますが、銅の価格はそれより1ヵ月前の8月から低下しています。

Q - どうして、銅価格から景気の動きが分かるのかしら。

A - 銅は、電気の通しやすさや、加工のしやすさという特徴を生かして多くの製品に利用されています。好景気で自動車や電化製品、半導体といった企業が設備投資に注力すると銅の需要が高まり、価格も上昇する傾向にあります。反対に、景気が右肩下がりとなって設備投資などの余裕がなくなると、銅の価格は下落します。そのため、銅が上がると景気の回復、下がると景気の減速につながるとされているのです。

Q - 最近の動きはどうなっているの。

A - 昨年は、中国・上海で2ヵ月以上続いたロックダウンにより物流機能が制限され、多くの工場が稼働停止となった影響が銅の価格変動にも表れました。その後のゼロコロナ解除に伴い価格は戻ったものの、一進一退の動きが続いています。特に近年は中国経済が好調であれば銅価格は上昇し、減退すると銅価格も下落する傾向にあります。中国が世界の銅消費量のうち半分以上を占めるようになっており、世界有数の銅産出国でもあるためです。

中国は日本にとって最大の貿易相手国です。銅の価格とともに中国経済にも注目していく必要があるようです。(北陸経済研究所の辻野秀信が担当しました)